環境社会配慮助言委員会 第139回 全体会合

日時 2022年8月1日（月）14:00～15:33

場所 JICA本部227会議室及びオンライン会議

（独）国際協力機構

助言委員

東 佳史	立命館大学政策科学部・大学院 教授
阿部 貴美子	実践女子大学人間社会学部
阿部 直也	東京工業大学 環境・社会理工学院 融合理工学系 教授
石田 健一	元東京大学 大気海洋研究所 海洋生命科学部門 助教
小椋 健司	元日本高速道路インターナショナル株式会社 プロジェクト担当部長
貝増 匡俊	神戸女子大学 家政学部 家政学科 准教授
源氏田 尚子	公益財団法人 地球環境戦略研究機関 (IGES) 東京サステナビリティフォーラム フェロー
柴田 裕希	東邦大学 理学部 准教授
鋤柄 直純	一般財団法人 自然環境研究センター 研究本部 研究主幹
鈴木 和信	日本大学 国際関係学部 教授
田辺 有輝	特定非営利活動法人 「環境・持続社会」研究センター (JACSES) 持続可能な開発と援助プログラム プログラムディレクター
谷本 寿男	元恵泉女学園大学 人間社会学部 教授
寺原 譲治	城西国際大学 観光学部 教授
二宮 浩輔	山梨県立大学 国際政策学部 教授
長谷川 弘	広島修道大学 人間環境学部・大学院経済科学研究科 教授
林 希一郎	名古屋大学 未来材料・システム研究所 教授
原嶋 洋平	拓殖大学 国際学部 教授
松本 悟	法政大学 国際文化学部 学部長・教授
山岡 暁	宇都宮大学 地域デザイン科学部 教授

敬称略、五十音順

(※) 会議室参加

JICA

戸島 仁嗣	審査部 部長
馬杉 学治	審査部 次長
小島 岳晴	審査部 環境社会配慮監理課 課長
高橋 暁人	審査部 環境社会配慮審査課 課長
永井 進介	南アジア部 南アジア第四課 課長

○小島 それでは、時間となりましたので、始めさせていただきたいと思います。

私、JICAの審査部環境社会配慮監理課の小島と申します。通常であればこういう助言委員会は委員長が開会を宣言しますが、今回は助言委員会の第7期の第1回目の会合ということで委員長選出前です。なので、代わりに小職から開会を述べさせていただきました。また、正副委員長が決まるまで進行を務めさせていただきます。

本日は、米田委員、そして、錦澤委員から欠席の連絡をいただいています。

では、助言委員の皆様、このたびは第7期のJICA環境社会配慮助言委員会の委員にご就任いただきまして、誠にありがとうございます。

本日、冒頭でJICAの審査部部長の戸島よりご挨拶させていただいた後、委員の皆様を名簿順で紹介し、皆様よりご挨拶をいただきたいと思います。その際には、今皆さんミュートにされていると思いますが、ミュートを解除し、できれば回線が許す限りカメラをつけていただいてご挨拶いただくと助かります。

新型コロナの感染の拡大が引き続き厳しい状況にあります。今回の第7期の最初の全体会合もこのような遠隔の形で進める形になってしまいました。ご協力いただきまして、ありがとうございます。

議事に入ります前に、まずは遠隔での全体会合の実施にあたって注意事項を何点かお知らせしたいと思います。

まず1点目ですが、画面にも先ほど表示されておりましたとおり、逐語議事録を全体会合においては取っています。その関係で皆様必ずマイクを使用してお発言いただきますようお願いいたします。ご発言されない間は必ずミュートにさせていただいて、発言される際はマイクがついていることを確認の上、ご発言いただければと思います。先ほども申し上げましたが、お話しされる際は回線が許す限りカメラをつけていただけるとお互いの表情がわかってよいと思います。

二つ目は、ご発言される際にはお名前をお名乗りいただくようお願いいたします。司会者から指名され次第、ご発言していただくようお願いいたします。また、どなたに向かってご発言されているかというのも明確にさせていただけると、お互い遠慮している間の沈黙が防げると思います。ご発言は、端的にごく短く発言いただくと議論が促進されるのではないかと思います。

お名乗りいただいた際にほかの委員と声が重なった場合やほかの委員の発言中に次の発言を希望される場合は、Teamsの挙手機能あるいはチャットに発言の希望の趣旨を書きいただきますと円滑に議事が進行できるかと思います。私たち事務局のほうでTeamsを常にフォローしておりますので、そこはご安心ください。

私からの注意事項は以上となります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、今期委員会の開始に当たりまして、JICAの審査部長の戸島よりご挨拶をさせていただきます。では、戸島部長、お願いします。

○戸島 紹介あったように、審査部長をしております戸島と申します。冒頭の発言となり大変恐縮ですが、一言申し上げます。

今回は第7期の委員会の初会合ということで、ご参加いただきまして、本当にありがとうございます。前回の第6期から継続いただく16名の方々に今回新たに5名の方々が加わっていただき、合計

21名の皆様に委員としてご就任いただいております。ご案内かもしれませんが、こうした常設の委員会は世界銀行をはじめとする国際機関、いわゆる開発援助機関にはない、非常にユニークな委員会と承知しております。この委員会の機能の役割、重要性につきましては、ODA事業における適切な環境社会配慮の実施に当たり、大きな意義を持ち続けていると考えております。

既にご承知かもしれませんが、JICAが2010年から使用しておりました旧環境社会配慮ガイドラインを、4年に及ぶ作業や別途立ち上げました検討委員会での議論を踏まえまして、今年の1月に新しい環境社会配慮ガイドラインということで改正・公布しております。このガイドラインの改正にあたり募集したパブリックコメントでは、国内外から総計で200を超えるご意見をいただきました。これはJICA事業に対する環境社会配慮、それから、JICA業務に対する高いご関心をうかがえる数字だと考えております。

昨今、言うまでもございませんけれども、環境社会配慮を取り巻く情勢や課題が複雑化・多様化する中で、今回の助言委員会の皆様とともにガイドラインを適切に運用し、質の高い案件を形成してまいりたいと思っております。こうしたことを踏まえまして、今回の助言委員の皆様におかれましては、ぜひJICA事業に対するご理解、それから、委員会におけるご協力、ご助言を賜りますようよろしくお願い申し上げます。本日は本当にお忙しい中ご参加いただきまして、ありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。

一言ご挨拶申し上げます。以上です。

○小島 戸島部長、ありがとうございました。

今期助言委員にご就任いただきました皆様のご紹介をさせていただきたいと思っております。名簿順にお名前を当方より申し上げますので、委員の皆様から一言ずつご挨拶などをいただく形でお願い申し上げます。

では、早速ですが、東委員、そして、その後、阿部貴美子委員、ご挨拶をお願いいただければと思います。東委員、お願いします。

○東委員 東です。こんにちは。ご紹介いただきました東です。今期から皆様方、よろしくお願いいたします。

以上です。

○小島 東委員、ありがとうございました。

では、阿部貴美子委員、お願いします。その後、阿部直也委員、お願いします。

○阿部（貴）委員 阿部貴美子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

現在は大学3つで非常勤講師をしております。過去に財団法人国際開発センターというところで仕事をしておりまして、環境社会配慮ではカンボジアの港湾の経済特区の関係の仕事をしたことがあります。そのほかには研究として保健人材のジェンダーですとか外国人の女性のジェンダーの問題を研究しております。どうぞよろしくお願いいたします。

○小島 阿部委員、ありがとうございました。

では、阿部直也委員、その後、石田委員、お願いします。

○阿部（直）委員 皆様、阿部と申します。よろしくお願いいたします。

現在、東京工業大学環境社会理工学院というところに所属してございます。私自身は社会人として最初の経験を旧OECD、現在のJICAの円借部門で業務をさせていただくという機会に恵まれました。

て、その後いろいろありまして、今は大学に身を置いております。現在は技術協力の案件でラオスの国立大学の支援プロジェクトにも関わってございます。

私の関心はいわゆる科学技術みたいなものと、それから、社会、それから、環境の間の両立とかバランスをどうやって保っていくかということを中心に経済学的な観点から見ていこうということで研究をしております。第6期から続けて参加させていただくことになりました。よろしくお願いいたします。

○小島 阿部委員、ありがとうございました。

では、石田委員、その後、小椋委員、お願いします。

○石田委員 石田です。前期から引き続き務めさせていただいています。

私の専門は農林水産と、それから、あとは生物多様性や自然保護、そして、もう一つやっぱりとても大切なのは参加型開発という分野で培った人々がどうきちんと事業に参加していけるかというところにいつも着目していますので、今期もそういった異なる専門分野の視点から組み合わせたもので助言等をしていきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

○小島 石田委員、ありがとうございました。

では、小椋委員、その後、貝増委員、お願いします。

○小椋委員 小椋でございます。

第5期から今期で3期目、委員を仰せつかっております。専門領域は公共用地補償あるいは住民移転、生計回復といった主に社会配慮を専門領域としてございます。よろしくお願いいたします。

○小島 小椋委員、ありがとうございました。

では、貝増委員、その後、源氏田委員、お願いします。

○貝増委員 貝増匡俊と申します。よろしくお願いいたします。

私は今期から委員のほうになりまして、非常にちょっと緊張しております。私自身は、今現在は神戸女子大学のほうで教員をやっておりますが、その前職としてスリランカのほうで企画調査員ということで主に電力セクターのほうを担当しておりました。これから私自身もいろいろと学んでいけないといけないと思うんですけども、よろしくお願いいたします。

○小島 貝増委員、ありがとうございます。

では、源氏田委員、その後、柴田委員、お願いします。

○源氏田委員 源氏田です。

現在、地球環境戦略研究機関、IGESというところで勤務しております。主にアジア地域を中心とした地域の環境影響評価制度や自然環境保全制度などを研究しております。皆様とご議論できるのを楽しみにしております。よろしくお願いいたします。

○小島 源氏田委員、ありがとうございます。

では、柴田委員でその後、鋤柄委員、お願いします。

○柴田委員 東邦大学の柴田です。お世話になっております。

2014年からこちらのほうでお世話になっております。専門は戦略アセスメント、戦略的環境アセスメントですとか近年は都市開発や地熱開発の合意形成の研究なんかに取り組んでいます。よろしくお願いいたします。

○小島 柴田委員、ありがとうございました。

では、鋤柄委員でその後、鈴木委員、お願いします。

○鋤柄委員 ご紹介いただきました鋤柄と申します。

私はこれまで自然環境関係、特に生物調査を中心に仕事をしてまいりました。前期からの引き続きですが、よろしく願い申し上げます。

○小島 鋤柄委員、ありがとうございました。

では、鈴木委員、その後、田辺委員、お願いします。

○鈴木委員 ありがとうございます。鈴木と申します。

今期から委員のほうをさせていただきます。よろしく願いいたします。今年の3月までJICAのほうで仕事をしておりまして、この4月から今の日本大学国際関係学部のほうで教員をしております。初めての委員ということになりますけれども、よろしく願いいたします。お世話になります。

○小島 鈴木委員、ありがとうございました。

では、田辺委員、お願いします。その後、谷本委員、お願いします。

○田辺委員 田辺と申します。

委員は2014年からこちらのほうを務めさせていただいています。環境・持続社会研究センター、JACESというNGOの職員をしております。金融機関の環境社会配慮について調査、提言活動を行っております。よろしく願いします。

○小島 田辺委員、ありがとうございました。

では、谷本委員の後、寺原委員、お願いします。谷本委員、大丈夫ですかね。お願いします。

○谷本委員 谷本です。

この委員会では一番の古参の委員になっていると思います。最近ちょっと事業完成後の維持管理というのを重視したいと思って、いろいろ助言をしていきたいと思っています。2年間どうぞよろしく願いします。ありがとうございました。

○小島 谷本委員、ありがとうございました。

では、寺原委員でその後、錦澤委員がお休みなので、二宮委員、お願いします。

○寺原委員 寺原でございます。

私は4年ほど前まで四半世紀ほどコンサルタントをやっておりまして、新任の阿部貴美子委員とも同僚だったことがございます。5期からこの委員会に参加させていただいておりまして、個人の専門領域としては交通計画、都市地域計画などをやっているところでございます。現在は千葉県東金市にある城西国際大学というところで教員を務めております。よろしく願いします。

○小島 寺原委員、ありがとうございました。

では、二宮委員でその後、長谷川委員、お願いします。

○二宮委員 二宮です。聞こえますでしょうか。

○小島 聞こえます。

○二宮委員 すみません。山梨県立大学の二宮と申します。

1期から3期までJICAの環境社会配慮のスタート時に助言委員として関わらせていただきました。しばらく外から勉強させていただいていましたが、また今期から参加させていただくことになりました。よろしく願いいたします。

○小島 二宮委員、ありがとうございました。

では、長谷川委員でその後、林委員、お願いします。

○長谷川委員 長谷川です。

広島修道大学におります。大学に来る前はFAO、それから、一時期JICAのお世話になったり開発コンサルタントをさせていただきました。私は第2期から委員のほうをさせてもらって、そろそろフェードアウトしなくちゃいけないかなと思っておったんですけども、今コロナであまり業務がないということで、また今回もさせていただくということで勉強させてください。よろしく願いいたします。

○小島 長谷川委員、ありがとうございます。

では、林委員でその後、原嶋委員、お願いします。

○林委員 林です。

名古屋大学未来材料システム研究所に所属しております。個人的には環境アセスメントとか生態系サービスとか再生可能エネルギー関係のGISのようなものですね、空間評価を使った分析みたいなものを作って助言委員会に貢献できればなと思ってございます。よろしく申し上げます。

○小島 林委員、ありがとうございました。

では、原嶋委員、その後、松本委員、お願いします。

○原嶋委員 原嶋でございます。よろしく申し上げます。

継続して委員を務めさせていただきます。個人的にはアジアの環境問題とかアジアの国々、特に東アジアの国々の環境政策に関心を持って勉強しております。よろしく申し上げます。

○小島 原嶋委員、ありがとうございました。

では、松本委員でその後、山岡委員、お願いします。

○松本委員 松本でございます。よろしく願いいたします。

思えば1999年、OECDと旧輸銀が一緒になった統合ガイドラインに働きかけるというところからこの環境社会配慮には関わりまして、あと2年で四半世紀ということになります。最初の10年はNGOメコン・ウォッチの職員として、後半の10年は法政大学の教員としていろんな意味で関わらせていただいております。今後もよろしく願いいたします。

○小島 松本委員、ありがとうございました。

では、山岡委員、お願いします。

○山岡委員 山岡です。

私はこれで3期目に入ります。宇都宮大学の地域デザイン科学部に教員として勤めております。私の専門は土木工学でして、コンサルタントの経験もあるんですけども、JICAの事業を含めまして電力開発、水資源開発、一時環境社会配慮も専門分野としてやらせていただいております。こういう自分の経験、専門からどちらかというとエンジニアリング的な視点が強いとは思いますが、この助言委員会で引き続き何らかの貢献させていただければありがたいと思います。よろしく申し上げます。

○小島 山岡委員、ありがとうございました。

最後、米田委員がおられるんですが、本日欠席ということで連絡をいただいております。

以上、21人の助言委員の皆様でございます。ありがとうございました。

それでは、引き続きまして、助言委員会の運営に当たって委員長及び副委員長の選任に入りたい

と考えております。

環境社会配慮助言委員会の設置要領では、互選により選任するとされています。まずは助言委員の委員長につきまして、助言委員の皆様のご意見を伺いたいと思います。助言委員の委員長についてご意見のおありになる方はご発言いただければと思います。挙手機能を使っていただいてもいいですし、ご発言いただいても結構です。

小椋委員から挙手いただいているように見えたのですが、いかがでしょう。

○小椋委員 小椋でございます。

今日も議題豊富なので、いたずらにここで拘泥するのも嫌なのですが、原嶋先生が前期で委員長をお務めになって私はスムーズに進めることができたと思っております、原嶋先生、お仕事の都合はいかがでしょう。もしよろしければ続投していただければ私は嬉しく存じますが、いかがでしょう。すみません、お願いして。

○小島 小椋委員、ありがとうございます。

原嶋委員、小椋委員からご発言ありましたが、ご意向はいかがでしょう。

○原嶋委員 音声入っていますか。

○小島 入っています。

○原嶋委員 名前を挙げていただきまして、どうもありがとうございます。もし委員の皆様がご了解いただければお引き受けすることができます。

以上です。

○小島 原嶋委員、ありがとうございます。

それでは、唐突ですけれども、原嶋委員を委員長に選任するというので、ほかに皆さん何かご意見ありますでしょうか。

今、拍手のアイコンが見えました。よろしいですかね。

ありがとうございます。それでは、原嶋委員を委員長に選任されるということで、ありがとうございます。

山岡委員、どうぞ。

○山岡委員 すみません、これちょっと拍手と間違えました。手を下ろさせていただきます。

○小島 山岡委員、ありがとうございます。

ご異論なさそうなので、原嶋委員長を選任されるということで、もしよろしければ原嶋委員より一言ご挨拶をお願いできればと思います。

○原嶋委員 繰り返しになりますけれども、今回こういう形で名前を挙げていただきまして、ありがとうございます。前期に続きまして委員長を務めさせていただきます。議事進行につきまして、コロナ禍ということでオンラインの会議が続いておりますので、制約が多くございますけれども、議事進行及び委員会の運営にご協力をいただければと思います。よろしく申し上げます。

以上です。

○小島 原嶋委員長、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

それでは、引き続きまして、副委員長の選任ということでございます。

副委員長は設置要領上1名ないし2名を置いて、委員の互選により選任ということになっています。ただ、副委員長につきましては、これまでの慣例を踏まえて、まずは原嶋委員長からご指名をいた

だきまして、そして、委員の皆様のご意見をいただくという形にさせていただければと思います。

原嶋委員長、もしよろしければお願いします。

○原嶋委員長 よろしくをお願いします。

慣例に従いまして、副委員長お二人の指名をご提案させていただきたいと思います。お一方は林希一郎委員でございます、林先生は前回も副委員長を務めていただいて、研究においても大変優れた成果をお持ちですし、この分野の学会でも大変重要な役割を果たしておりますので、ぜひお願いしたいというふうに考えております。

もう一方、お二人目でございますけれども、源氏田尚子委員をお願いしたいというふうに存じます。源氏田先生はこれまで委員として大変積極的に委員会の活動にご参加いただきまして、適切なご意見やご助言を頂戴してきました。環境アセスメントや自然環境を中心に環境行政の点にも大変精通されておりますので、副委員長としてぜひ貢献させていただきたいというふうに思います。

繰り返しになりますけれども、林希一郎委員、そして、源氏田尚子委員のお二人の指名を皆様にご提案したいと思います。よろしくをお願いします。

○小島 原嶋委員長から林委員、そして、源氏田委員のご指名の提案をいただきました。ご指名のあった林委員、続いて源氏田委員からお考えをお聞かせいただいてもよろしいでしょうか。まず、林委員、お願いします。

○林委員 名前を挙げていただきまして誠にありがとうございます。皆様のご支持等得られるようであれば、僭越ながらお引き受けさせていただきたいと思っております。よろしくをお願いします。

○小島 林委員、ありがとうございます。

源氏田委員、いかがでしょう。

○源氏田委員 ご指名いただきまして、ありがとうございます。私のほうも皆様のほうからご支持いただけるようでしたら、喜んでお受けさせていただきたいと考えております。よろしくお願いたします。

○小島 林委員、源氏田委員、ありがとうございます。

では、ほかの委員の皆様からご意見などあればお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

もし林委員、源氏田委員でよろしいという方は今、松本委員がされたように拍手ボタンを押していただけると。

ありがとうございます。大丈夫ですかね。

ありがとうございました。それでは、林委員、源氏田委員のお二方を副委員長に選任するという事で、皆様どうもありがとうございます。

林委員、源氏田委員、よろしくをお願いします。お二方から先ほど既にご挨拶いただいたんですが、もう一度一言ずついただければと思います。

林委員、お願いします。

○林副委員長 このたびはご指名いただき、ご支持いただきまして誠にありがとうございます。委員長の原嶋先生が大変優れた議事進行をしていただいているので、陰に隠れながらJICAの助言委員会が適切に運用できるようにサポートできればなと思っております。また、新ガイドラインの運用が始まるということもありますので、その点についても留意しつつ進めていければなと思っております。どうぞよろしくをお願いします。

○小島 林委員、ありがとうございました。どうぞよろしく申し上げます。

源氏田委員、お願いします。

○源氏田副委員長 先ほど原嶋委員長からのご指名により、また、皆様からのご支持により新たに副委員長となりました源氏田です。どうぞよろしく願いいたします。

米田副委員長の後任という形になります。JICAの環境社会配慮助言委員会には2018年から委員を務めさせていただいております、今期で3期目となります。米田副委員長と比べますと、まだまだ未熟なところがあるとは思いますが、委員の皆様方、JICAの皆様方のご支援とご協力をいただきながら副委員長の任務を果たしていただければと考えております。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

以上です。

○小島 源氏田委員、ありがとうございました。

以上で委員長、副委員長の選任を了しました。円滑な進行にご協力いただきまして、ありがとうございます。新正副委員長におかれましては、どうぞよろしく申し上げます。

それでは、ここで原嶋新委員長にマイクをお譲りいたしまして、議事進行をお願い申し上げます。原嶋委員、お願いします。

○原嶋委員長 それでは、音声入っていますでしょうか。

○小島 音声よく聞こえます。

○原嶋委員長 それでは、改めましてJICAの環境社会配慮助言委員会の139回の全体会合を進めさせていただきます。

今お手元に議事次第といくつかの資料が提供されていると思いますので、ご参照の上、進行にご協力をよろしく申し上げます。

今回初めてご参加の方が私の承知しているところでは5名ほどいらっしゃるということで、ご発言の希望がありましたら遠慮なく今の参加のサインを送っていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

それでは、開会についてはもう既に終わっておりますので、議事次第の2番目になりますけれども、ワーキンググループのスケジュール確認ということでございます。

今、お手元の資料の2枚目に委員会の日程表というのがございます。既にこれは3か月分出ておりますけれども、既に8月、9月についてはご了解いただいたということの場合には丸がついてございます。新しいものについてはまだ丸がついておりませんので、もし日程にご都合が悪いという場合あるいは逆に積極的に参加を希望されるような場合については、また事務局のほうに個別にご連絡いただきたいと思います。大きな点で何かご質問等ありましたら今承りますので、サインを送っていただけますでしょうか。

事務局のほうは何か補足ございますでしょうか。

○小島 このエクセルのシートは皆様のご予定を確保する上で、できるだけ予測性を確保するために作成しているものでございます。ワーキンググループ（予定）というふうに書かれていますが、必ずしもワーキンググループが開催されるわけではなく、付議する案件が出てきた場合にその予定を確保していただくというところがございます。当然ながら直前になっていろんな要件が入ることがあると思いますので、そのような場合あるいは今の時点で予定がつかなくなっているというよ

うなことがおわかりの場合は、事務局に個別に連絡いただければ必要な調整を行いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ご参考までに、ワーキンググループの成立には4人の助言委員の参加が必要になっていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

○原嶋委員長 ありがとうございます。

ここまでのところ、とりわけ初めてご参加の東委員、阿部委員、貝増委員、鈴木委員、二宮委員、二宮委員は既にご経験があると思いますけれども、もし何か確認する必要がありましたら、とりわけ新しくご参加の委員の皆様、遠慮なくご発言をいただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○東委員 特にございません。以上です。

○原嶋委員長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

○鈴木委員 特にございません。ありがとうございます。

○貝増委員 私ちょっと質問がありまして、前はちょっとブリーフィングに出られなかったので、ワーキンググループの決め方とか今後私がどこに参加していくのかというところについて少し場違いかもわからないんですけれども、お聞きしたいと思います。

○原嶋委員長 小島課長、よろしいでしょうか。お願いします。

○小島 ワーキンググループのお名前は皆さんの専門分野やお立場がばらけるようにアレンジしています。これで調整がつかない場合は連絡いただければ調整しますので、どうぞよろしくお願いいたします。なので、多分皆さんの受け取りとしてはほぼランダムに入っているというふうに受け止めていただければいいと思います。

以上です。

○貝増委員 わかりました。ありがとうございます。

○原嶋委員長 あと、貝増委員、もし今後具体的にプロジェクトが当てはめられていきますので、個別にプロジェクトに関心があるような場合には、規定された予定とは別に積極的にご参加いただくことはやぶさかではありませんので、むしろ歓迎しますので、お申し出ください。

ほかよろしいでしょうか。特になければ続けさせていただきます。阿部委員、よろしいでしょうか。

○阿部（貴）委員 特にございません。

○原嶋委員長 ありがとうございます。

ということで、毎回こういう形でワーキンググループのスケジュール確認をしておりますので、その都度と合わせて個別に事務局のほうでメールベースでのご連絡をお願いします。

それでは、議事次第の今2番目のワーキンググループスケジュール確認が終わりましたので、続きまして、3番目の案件概要説明に進めさせていただきます。これにつきましては既にご案内かと思っておりますけれども、一般的には20分程度、案件概要についてのご説明をいただいた上で、後々近い将来ワーキンググループを設置して個別に詳細を議論するという形になります。したがって、全体会合での案件概要説明については非常に大きなところについてご質問やコメントや問題提起をいただいて、個別の点についてはワーキンググループの中でご議論いただいて、その結果を基にま

た全体会で助言の確定などをするという形になりますので、ご了承ください。

全体会合では、案件概要説明とともにワーキンググループでの助言確定というのが大きな作業になります。本日は助言確定はございません。案件概要説明と助言の確定というのが柱になってまいりますので、この点についてもご承知おきいただきたいというふうに思います。

それでは、本日は案件概要説明ということで1件予定されております。資料については多分PDFで既にお送りいただいているものがあるかと思えます。画面にも提示していただいて、担当の方からのご説明の後、先ほど申し上げたとおり大きな点についてご質問や確認などをいただくと。質問などもなかなか対応も大変ですので、3人ぐらいを単位に質問やコメントとレスポンスを繰り返していくという形を予定しております。

それでは、本日はバングラデシュのジョイデプールーイシュルディの鉄道複線化事業の案件でございます。スコーピング段階ですので、ご説明のご担当の方、準備ができましたらご説明をお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○永井 よろしく願いいたします。聞こえますでしょうか。

○原嶋委員長 聞こえます。

○永井 ありがとうございます。JICA南アジア部南アジア第四課で課長をしております永井でございます。よろしくお願いいたします。

3年前まで審査部に所属しておりました、一部の助言委員の皆様には大変お世話になりました。どうぞよろしくお願いいたします。

今日はバングラデシュのジョイデプールーイシュルディ間の鉄道複線化事業の案件の概要についてご説明させていただきます。

次のページをお願いします。

事業の背景から今後のスケジュールまで6点説明させていただければと思います。

次をお願いします。

こちらは事業の背景でございます。早速申しわけないんですけども、事業対象区間の色をつけるところが若干ずれておりました、今画面に表示させていただいているのが正しいものでございます。赤色で示させていただいたところが今回複線化をさせていただく区間でございます、ダッカ近郊のジョイデプールから同国西部のイシュルディ駅までの鉄道の現在単線化されているものを複線化するものでございます。

資料に戻らせていただきますけれども、1ポツ目、バングラデシュは非常に今経済成長しており、鉄道の輸送能力が非常に低い状況でございます。年間8%の伸びを示している鉄道輸送ですけれども、対応できていない状況でございます。バングラデシュ政府は鉄道の複線化等により輸送能力を強化する方針を有しております。

本事業は同国の鉄道マスタープランにて優先事業に位置づけられている案件でございます。本事業の実施により同国内の東西をつなぐ主要路線が複線化され、具体的に言いますと、インドの国境のダルシャナ駅から同国首都ダッカまでの複線化が達成されるというところです。この赤の路線からインドの国境については既に複線化されてございます。なので、こちらがつながりますと、インドの具体的に言うとコルカタからダッカまで複線化が達成できるということを見込む案件でございます。

4ポツ目ですが、本事業のF/Sですが、実施機関が2019年に作成済みでございます。ただ、実施から既に4年が経過してございまして、円借款事業としての妥当性確認のために追加的に今回調査を行うものでございます。

環境社会配慮面でございますが、実施機関は既にバングラデシュ環境局によるEIA報告書の承認を得てございます。また、Resettlement Action Planの作製も完了しております。ただ、先ほど申したとおり時間も経過しておりますので、協力準備調査の必要に応じて追加調査を実施することを検討しております。

次をお願いします。

2ポツ目の事業概要でございます。事業目的、最初に申し上げたとおりダッカ近郊のジョイデプール駅から当国西部のイシュルディ駅までの間において複線化を実施するものでございます。結果、鉄道輸送能力の強化を図り、もって国内及び周辺国との連結性向上を通じた経済発展に寄与する案件となっております。

事業対象地域はこちらに書かせていただいた4つの県でございます。実施機関はバングラデシュ国鉄、協力準備調査の実施期間は2022年6月から2023年10月を予定してございます。

本事業の事業内容でございますが、複線化工事を170km予定してございます。土木工事が中心ですけれども、橋梁の建設とか既存26駅の更新を含みます。あと、線を敷く軌道工事、信号通信設備の整備を予定してございます。また、コンサルティングサービスにつきましても、詳細設計、入札補助、施工監理、環境社会配慮手続及びモニタリング等の補助を行う予定でございます。

なお、今回車両の調達には含まれてございません。既存の車両を活用する予定でございます。

続きまして、事業対象地でございますが、こちらに示したとおりでございます。右下にダッカがございまして、ダッカからジョイデプールまでは既に複線化されてございまして、そこからずっとイシュルディまで行くものでございます。こちらはご参考までにどのような現場の状態かというところを写真で示させていただいているものです。市街地区間、川を渡る区間、一部国道と並走している区間ですとか、あと、駅の様子もこちらに示させていただきました。沿道沿いには建物が若干立地しているところもございまして、こちらが事業対象地の写真でございます。

続きまして、4ポツの代替案の検討でございます。

先ほど2019年に実施機関がF/Sを実施したと言っていますが、このときは全区間複線化することを想定してございました。最初から最後まで複線化と。ただ、我々の調査におきましては、まずは代替案の検討をしたほうがいいと思っております。本当に全区間の複線化が必要なのかと。それは経済性ですとか環境社会配慮もしくは技術的な側面から検討したいと思っております。

具体的にどのような代替案を検討するかといいますと、以下3つでございます。一つはまず既存路線の北側に線路を敷くのか、南側に敷くのかというところがまず一つ大きな観点かと思っております。

二つ目は対象区間の一部複線化の案もあるかと思っております。例えばまだ需要がないので西側は複線化しないとか、また、全区間ではなくて一部区間だけの複線化で十分貨物ですとか旅客需要を賄えるのではないかと、そこは今後代替案の比較を通じて検討していきたいと。また、3つ目の案としては事業を実施しない案という3案を代替案として検討したいと思っております。

2020年に実施機関が作成したEIAレポートでは、以下の8項目に基づいて北側または南側の複線化を比較して、北側への複線化を選定してございました。具体的には騒音ですとか粉じん、これはやはり南側のほうが住居が多いため影響がある、また、2ポツの住居地・構造物への影響があったと。学校も同じような形で事業地全体を通じて南側に構造物が多かったという結果が見えてございます。また、技術的な側面から5ポツ目、曲線の半径ですとか勾配などを考えても北のほうが適当だったというふうな結論になってございます。

あとは河川横断時、洪水への対処、あと、BRの所有地を有効活用した影響等々を勘案いたしまして、2020年のBR実施機関のEIAレポートでは北に複線化をしたほうがいいという結論になっていきます。もちろん協力準備調査においては、こちらの調査を参考にしつつ改めて代替案の比較検討からしたいと思っております。

続きまして、5ポツでございます。

環境社会配慮でございますが、助言を求める事項は環境社会配慮調査のスコーピング案と協力準備調査のドラフトと想定してございます。適用ガイドラインは2010年4月の環境ガイドラインです。カテゴリ分類はAで、上記ガイドラインに掲げる鉄道セクターに該当するためにカテゴリAとしてございます。

想定される環境社会影響でございますが、まず実施機関が作った住民移転計画によると、約100acreの用地取得、そして、約2,000世帯の物理的住民移転が想定されるということでございました。こちらは全ての区間を複線化した場合の数字でございまして、それは代替案の比較等を踏まえて変わってくるものかと思っております。結果、大規模な住民移転が伴う場合には環境カテゴリの根拠については住民移転も理由になってくると考えてございます。

あと、本事業の複線化予定地には国立公園等の重要な自然生息地は含まれていないことが確認されてございます。ただ、ジョイデプールより6km地点において国立公園が確認されてございます。こちらはちょっと記載を正確に言いますと、国立公園のコアエリアから8km離れてございまして、正確にはわからないので調査で確認しますが、バッファゾーン的なものから500m離れている南側を通過するという事は確認できてございます。協力準備調査で本事業の影響を調査する予定でございます。

あとは一般的な供用に伴う振動・騒音の影響も複線化にしますので、さらに増加することが想定されてございます。

今後のスケジュールですけれども、協力準備調査は7月から10月を想定しています。2行目の助言委員会の8月は、これは今日ですね。助言委員会のスコーピング案につきましては10月にかけてさせていただいて、11月の全体会で助言を確定したいと思っております。その間にE/S借款を供与させていただきたいと思っております。

その後、ステークホルダーミーティングを8月と5月、すみません、このスコーピングの最初の8月というのはスコーピング案のステークホルダー協議です。次の2023年5月というのはドラフトファイナルレポートに対するステークホルダー協議でございまして。

助言委員会のドラフトファイナルのワーキンググループを来年の5月、次の6月に全体会で助言を確定という形で、その後、2023年度中に審査を行って年内に本体の借款のL/Aを調印したいと考えております。こちらが全体のスケジュールでございまして。

ですので、環境レビューにつきましては、本体借款の審査のときに実施する予定でございます。
以上でございます。

○原嶋委員長 どうもありがとうございました。

それでは、今大変詳しく日程についてもご説明いただきましたので、先ほど冒頭にも申し上げましたけれども、案件概要説明の後、今回の場合は10月をめどに助言委員会が設置されますけれども、本日は案件概要全体の非常に大きなポイントにつきましてご質問や確認をしていただきたいと思います。対応のほうもなかなか大変ですので、3人ぐらいを単位にご質問等承って、担当のほうからレスポンスいただくという形で進めていきますので、初めてご参加の委員の皆様にも積極的にご発言をいただきたいと思います。

ご発言の場合には、今既にいただいておりますけれども、参加者のところにサインをいただくか、あるいは場合によっては声をかけていただければというふうに思います。よろしくをお願いします。

それでは、既にお三方からサインをいただいておりますので、順次進めさせていただきます。

柴田委員、お願いします。柴田委員、聞こえますか。

小島さん、私の声、聞こえていますか。

○小島 原嶋委員の声は聞こえています。柴田委員、今映像は映っていますが、声が聞こえないようです。

○柴田委員 すみません。ちょっと今接続が一時切れてしまったみたいなんですけれども。

○原嶋委員長 よろしくをお願いします。

○柴田委員 よろしいですか。

○原嶋委員長 柴田委員、どうぞ。

○柴田委員 すみません。ちょっと大きなところで2点お伺いしたいんですが、既に実施されているフィージビリティスタディとの関係のところなんですけれども、1点目は既にDRのほうでフィージビリティスタディあるいはEIAの作成が行われているということだったんですけれども、一方で、今回の代替案の検討について複線化そのものをどの区間で行うのかということまで含めて代替案を検討するというお話でしたので、フィージビリティスタディの中で複線化が必要だというような恐らく結論に至る調査がなされていたのかとは思いますが、改めてそこを検討する必要性が生じているその背景のところをもし情報があれば教えていただきたいというのが1点と、2点目は代替案を検討する場合に北側または南側への複線化ということで書かれているんですけれども、これは既にある軌道に沿った形での対処ということなのか、あるいは線形そのものを北または南に変更するという含んでいるのかどうかということですね。もしかしたらワーキンググループでまた詳細をとということになるかもしれませんが……。

○原嶋委員長 柴田委員、聞こえますか。ちょっと音声がか切れているように思いますけれども。

小島課長、今どういう状況ですか。

○小島 同じで音声も聞こえず、画面は止まっているという状態です。

○原嶋委員長 それでは、ちょっと一旦柴田委員……

○小島 ご発言は終わったような感じなので。

○原嶋委員長 そうですね。では、一旦ここで柴田委員のご発言は締めくくりとさせていただいて、まとめて対応をお願いしますけれども、小椋委員、聞こえますか。

○小椋委員 聞こえます。

○原嶋委員長 お願いします。

○小椋委員 永井課長、ご無沙汰しております。

6分の3の3の事業対象地のスライドを拝見しながら、あと、RAPが既に出来上がっているということを踏まえて2点教えてください。

1点目は特に沿線沿いの建物ですが、ランドレスピープル(Landless People)、要は土地なし住民の方がお家を建てられてお住まいのところがありますか。その方に対する補償はどのような補償方針ですかというのが1点。それと、特に市街地区間、ヤンゴンの環状鉄道も見に行ったことがあるのですが、そこでも軌道敷上に随分物売りの方が出てこられたりして、鉄道が入ってくる都度乗客に対して物売りしていらっしやる。そういう方がもしいらっしやるのであれば、そういう方に対して何かキヨスク(売店)的なものを生計回復策として考えていらっしやるのかどうか、その2点について伺えればありがたいです。

以上です。

○原嶋委員長 ありがとうございます。

それでは、2点ですけれども、あともう一方いただいておりますので、松本委員、聞こえますか。よろしくをお願いします。

○松本委員 よろしくをお願いします。

基本的にはワーキンググループということで、そのときをお願いしたいということも含めて3点と、あと、今日の助言委員会として1点ということです。

今日の助言委員会としてちょっと気になっていることがF/Sと本体の両方が存在していて、環境レビューは本体のところだけというふうにお話をされていたんですが、ごめんなさい、E/S借款です。これ確認ですが、E/S借款の後、本体借款に向けた要請がもう一度来るわけではなく、E/S借款と本体借款が同時に要請が来ている案件だというふうに理解していいのかどうかというのが全体会合的に気になる点で1件質問です。

ワーキンググループに向けて3点ですが、これは確認なんですけど、先ほど永井さんがおっしゃったように現地政府が北に決まったというふうな言い方でしたけれども、当初考えているように北、南の場合、それから、東、西もしくは一部どこかの場合、そして、行わない場合というふうに分けてワーキングでは代替案が出てくるのかどうかということを確認したいのが1点目です。

2点目は橋のことで水象に関しての調査というのは入っているんですが、ジャムナ川はチャーという季節性のある中洲が出たりなくなったりして、チャーに人が住んでいるとかということもあるわけですが、チャーに対する影響は既に調査されているのかどうかを確認したいというのが2点目。

そして、3つ目は先ほどのご質問ともちょっと関係してくるんですが、線路沿いと人々の生活空間がかなり近いので、列車の本数によっては線路を生活に利用している人たちがいるんじゃないかというふうにもちょっと思うんですけれども、このあたりについては列車の本数とも関係してくるんですが、助言委員会にはそのあたり、ワーキンググループには情報を提供していただく予定かどうか、この3点をお願いしたいと思います。

以上です。

○原嶋委員長 ありがとうございます。

それでは、東委員は後ほどということで、今お三方からいただいたご質問等について永井課長、よろしいでしょうか。

○永井 柴田委員からいただいたのは、聞こえますか。

○原嶋委員長 聞こえますよ。どうぞ続けてください。

○永井 実施されているF/Sとの関係という質問と北、南への複線化は沿った形でやるのかという2点のご質問だったかと思います。

1点目に関して、F/S自体は2018年にやられているんですけども、我々が確認したところ、元のデータは結構2013、14の10年前のデータに基づいている部分が多々あったんですね。例えば交通量も含めて、あと環境社会の状況も、全てではないですけども、やはり我々としては最新のデータにアップデートしたうえでフィージビリティを確認したほうがいいと考えたので、追加調査をさせていただくものでございます。

あと、北、南への複線化ですが、こちらはご指摘のとおり既存の単線の線路に沿った形で上か下かに線路を複線化するという事を考えています。

次に、小椋委員ですけども、RAPが出そろっているというところで2点、土地なし住民への支援、こちらはもちろん環境ガイドラインに基づいて再取得価格を含めた補償を求めることとなります。あと、生計回復支援を行うこととなります。

あと、物売りがいるかもしれないということに対する生計支援ですけども、こちらは実際の現場で調査してみないとわかりませんが、例えば日々いろいろとふらふらして定住していない商売をなさっている方には支援しないかもしれませんが、ある程度しっかりとした店売りの形で営業している場合には生計支援の対象、商売の補償の対象支援になってくるのかなど。ここは現場に行って実際どのような形でビジネスをしているのかというところを確認して検討したいと思っています。

あと、松本委員からいただいた件ですけども、こちらは正確にどこまでいうかわからないんですけども、まず本体に対するこの事業をやってほしいという要請が出てきたというものです。ただ、もちろんやったからといってすぐにやるというわけではなくて、まさに今回の追加調査でフィージビリティをある程度見た上で進むということになるのかなと思っています。

続きまして、代替案ですけども、こちらは北、南ですとか東西を一部含めて代替案を検討したいと思いますが、そもそもどこまでできるか、どういう案があるかというのは技術的な面もありますので、技術的にできないものは代替案の比較検討の対象になりませんので、そこは実際の調査を見てみて、どういう代替案が現実的なのかというところを見て比較検討したいと思っています。

ジャムナ橋に関しましては、こちらは先ほど説明していませんでしたが、ジャムナ鉄道橋という事業がございまして、その中で既に環境レビューを行ってございまして、影響については確認させていただいているところです。

あと、線路沿いに住んでいる、こちらはすみません、ちょっと調査をしてみないとわかりません。どういう方がこの線路を利用しているかというのは調査の中で確認したいと思っています。

以上です。

○原嶋委員長 取りあえずいただきまして、東委員、聞こえますか。

○東委員 はい。聞こえております。

○原嶋委員長 ご質問あるいは何か確認事項がありましたら、ご発言をどうぞお願いします。ちょっと音声は高めでお願いします。

○東委員 すみません。ちょっと待ってください。

聞こえますでしょうか。

○原嶋委員長 よく聞こえます。どうぞお願いします。

○東委員 ちょっと1点だけです。2013年のフィージビリティスタディということなのですが、コロナの後、特に鉄道事業は需要予測が全く変わってしまって、例えばインドネシアでは中国に取られてしまったジャカルターバンドンの高速鉄道、インドネシアの場合はジャカルタ・バンドンで在宅勤務が急速に広がりまして、20年で黒字というところには全く行かず、40年で黒字ということで、取られてよかったというようなことにもなっていると思うんですが、高速鉄道と在来鉄道の複線化ということで多少意味は違いますけれども、本当にバングラデシュでこれから在宅勤務というのが広がっていくのか、そして、観光地があまりないようなところで複線化をするところの基本的な需要というのは今度調べられる予定なんでしょうか。

以上です。

○原嶋委員長 どうもありがとうございました。

続きまして、鋤柄委員、聞こえますか。どうぞお願いします。

○鋤柄委員 やや細かい点になってしまうんですが、想定される環境社会影響、5枚目のスライドですけれども、用地取得が100acre、これは数十haでしょうか。これは新たにバングラデシュ国鉄以外の機関なり個人が持っている土地を取得するという意味なのか、これは1点確認です。

もう一点は2,000世帯の住民移転が想定されているというこの2,000世帯というのは、現在バングラデシュ国鉄が持っている土地、そこに住んでおられる方を複線化に伴って移っていただくと、こういう方も含めて2,000世帯になっているんでしょうか。この2点の確認をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

○原嶋委員長 どうもありがとうございました。

それでは、田辺委員、お願いします。

○田辺委員 ジャムナ橋なんですけど、私の理解では道路と鉄道の二層構造に既になっているという理解なんですけれども、鉄道のほうは複線のスペースが既にあるって新しい橋梁を作るという話ではなくて、そのスペースに線路を敷くという理解でいいのかどうかというのを確認させてください。

○原嶋委員長 ありがとうございます。

それでは、永井課長、お願いしてよろしいでしょうか。

○永井 まず、1点目、東委員ですけれども、2013年のデータ以降、コロナ後、鉄道需要が変わっているんじゃないかというご指摘ですが、こちらはバングラデシュは南アジアの中でも非常に高度経済成長が続いてございまして、コロナ禍においても4、5%、また、今後も6、7%の成長が見込まれているアジア地域で成長が続いている国でございまして、2024年にはLDCを卒業しまして、2041年には先進国入りを目指しているところでございまして。非常に需要が減るのではないかとご意見でしたけれども、調査の中で実際の需要というものを確認したうえで必要な支援を検討していきたいと思っております。

あと、鋤柄委員ですけれども、新たに民間公有地を獲得するのかという点、あと2,000世帯の内

訳ということでございますが、まず100acreというのは新たにBRが民間もしくは政府用地を購入する面積でございます。なので、新規で用地取得する必要の面積でございます。

あと、2,000世帯の内訳ですが、こちらは2種類ございまして、一つ目がBRの土地に不法に定住なさっている方々、そして、もう一つが家屋を持っていて、その家屋の取得対象となる方々と、正規・非正規両方を含む影響世帯数と理解しております。ただ、正直こちらは非常に古いデータとも聞いておりますので、改めて調査で確認したいと思っております。

あと、田辺委員からのご質問ですが、ジャムナ橋に関しましては、これは新規の円借款でジャムナ鉄道橋というものがございまして、そちらはジャムナ橋の北側に鉄道橋を整備する事業が既に承諾済みでございまして、そちらの事業のことを指してございます。ですので、そちらに関しましては別事業で円借款で整備させていただいております。

以上です。

○原嶋委員長 ありがとうございます。

そうすると、ジャムナ橋と本件の関係はどうなるか若干気になりますけれども、まずは貝増委員から発言のご希望が出ておりますので、貝増委員、聞こえますか。

○貝増委員 はい。聞こえます。

○原嶋委員長 よろしくお願ひします。

○貝増委員 ちょっと声がかすれているので聞きづらいかもわからないんですけども、1つは土地収用する土地が100acreなんですけれども、そこに非自発的な住民移転の世帯数が2,000世帯と書かれていたんですけども、そのほかに例えばそういう農地とかというので土地を持っている世帯の数とかというのはどのようになっているのかなということが一つ知りたかったことと、あと、それから、少し若干離れるかもわからないですけども、BRの財務状況とかについても少し教えてほしいなと思ひました。

以上です。

○原嶋委員長 ありがとうございます。

田辺委員、多分前の補足でよろしいでしょうか。お願ひします。

○田辺委員 そうですね。質問したかったことは新しい橋梁を作るのかどうかという点でして……。

○原嶋委員長 田辺さん、音声がちよつと切れているような感じがしますけれども、小島課長、どうですか。

○小島 私も今聞こえていません。

○原嶋委員長 田辺さん、もう一度最初からお願ひしてよろしいでしょうか。すみません。

○田辺委員 聞こえますか。

○原嶋委員長 はい。聞こえます。どうぞ。

○田辺委員 新しい橋梁を作るのかどうかという点を確認させてください。

○原嶋委員長 ありがとうございます。

それでは、貝増委員と田辺委員から補足でありましたけれども、永井課長、お願ひしてよろしいでしょうか。

○永井 まず、貝増委員にご質問いただいた点ですけども、土地収用で2,000世帯の影響は想定されますが、農地につきましてはどれぐらいの世帯に影響があるかというのは正直ちよつとすみま

せん、手持ちに情報がないので、こちらはワーキンググループの際に影響世帯数についてはご報告したいと思っています。

あと、BRの財務状況につきましては、こちらは基本的に政府の補助金、実施機関による自己収入において運営がなされておりますが、こちらについてもフィージビリティスタディの中で確認したいと思っています。

あと、新しい橋を作るかというところですが、こちらはご説明を加えさせていただきます。今単線で走っている線路というのはジャムナ橋につながっております。既存のジャムナ多目的橋につながっていて、そこには1車線あるので、そこを今使って貨物旅客を輸送しているというところがございます。

2016年に円借款でジャムナ鉄道専用橋建設事業を承諾させていただいております。そちらはジャムナ多目的橋の北側に建設しているものでございまして、現在も工事は進んでいるものでございます。今回の整備する複線化事業はジャムナ鉄道橋につながって複線化が最初から最後まで達成されるということでございます。

以上です。

○原嶋委員長 ありがとうございます。

谷本委員、聞こえますか。お願いします。

○谷本委員 1点ちょっと事務局のほうに聞きたいんですが、スライドの4ページですね。代替案のところで、ちょっと言葉がわからないので教えてください。一番最後の8ポツですね。BRの所有地の有効利用を考慮した影響とあるんですが、これは有効利用を考慮するということでいいんですか。何か有効利用することによって影響が出るようなことがあるんですか。この辺、ちょっと言葉尻を捉えるようなんですけれども、説明をいただければと思います。

以上です。

○原嶋委員長 どうもありがとうございます。

もう1点、私から先ほどの田辺委員との関係ですが、ジャムナの既に始まっている新しい専用橋の建設事業と本件というのは、ガイドラインにおいて不可分一体というふうに理解するのかしないのか、審査部のほうで所見をお願いします。

ということで谷本委員からのご質問については永井課長から、私の点については審査部のほうからお願いしてよろしいでしょうか。

○永井 まず、BRの土地の有効利用の件ですが、こちらは具体的に言うと、特に影響があるのは駅の位置なんですね。今既存線と駅の位置によって、区間によっては南側に作ったほうがいい、北側に作ったほうがいいというところで、駅の位置によってどちらがいいのかというところの影響が出てくるという観点からのBRの所有地の有効利用という観点でした。

以上です。

○高橋 JICA審査部の高橋です。

原嶋委員長からご質問いただきましたジャムナ鉄道専用橋と本事業の関係ですが、ガイドラインFAQにて不可分一体の定義について記載がございます。先ほど永井課長から紹介のあったとおり、2016年から事業が開始されており、今回の複線化事業がなかった場合でもジャムナ鉄道専用橋は建設する予定になっておりましたので、両者は不可分一体の関係にはないと理解しております。

私自身が永井課長の前任としてバングラデシュの担当をしていたため、背景を少し存じておりますが、現在使われている多目的橋の需要が逼迫しており、単線の鉄道だけでは需要をカバーし切れない状況があるため、鉄道専用橋事業が実施されたと経緯がございます。

以上です。

○原嶋委員長 どうもありがとうございました。

それでは、今までのご質問については一応一通り対応していただいておりますけれども、松本委員、先ほどのE/S借款との関係もよろしかったでしょうかね。松本委員、聞こえますか。

○松本委員 本体借款、この要請としては本体に来ているというご説明でしたので、理解はいたしました。

○永井 要請としてはE/S借款に来ていて、F/Sの結果を見て本体の要請が出てくるという整理です。

○松本委員 それなのに環境レビューは本体なんですか。

○高橋 審査部からお答えします。

本事業は、2010年ガイドラインの適用案件であり、同ガイドラインではE/S借款の中で調査を並行して行っている、プロジェクト本体に対する円借款の供与に係る環境レビューにおいて、環境社会配慮上の要件を満たすことを確認することを可とするという規定がございます。ガイドライン3.2.1の(5)でございますが、現時点で環境レビューに足り得る情報が十分でない状況としますので、F/S結果を踏まえ改めて事業の検討を行い、事業を進めていくかどうかを判断するという事かと思っております。その段階で本体の供与を検討するタイミングで環境レビューを行う立てつけとさせていただきます。

以上です。

○松本委員 そうすると、確認ですが、今回のE/S借款の要請においては、スコーピング、ドラフトファイナルレポートでまず2回助言委員会が開かれ、そして、その後、その結果に基づいて本体の要請が出てきた場合、環境レビューをもう一度助言委員会で行うという流れになるという理解でよろしいですか。

○高橋 今回、E/S借款を途中で挟むわけですが、環境レビュー自体は、本体借款の形成の過程で環境レビューを行う段取りになってまいります。

○原嶋委員長 松本委員、続けてどうぞ。

○松本委員 今回はE/S借款の要請に基づいて行われる協力準備調査だということによろしいですか。

○永井 要請書には明確に書いてあるわけではないです。本体借款も含めた形の要請ですが、そのプロセスの整理は必要ですが、E/S借款と本体借款を含める形での要請ですが、今回はE/S借款を行うものです。先方政府からは明確にE/Sの要請という形で要請をもらっているわけではないです。

○松本委員 では、本体借款の要請というふうに考えるんですね。

○永井 そこは整理的にはそうですね、まずはE/S借款からということになります。

○松本委員 ついこの前、インドネシアの案件でE/S借款の後、本体借款の要請がなくて消え去った事業がありましたけれども、ああいうことがあったときに、この案件は何だったんだということの説明ができないなと思ってしまう質問をしているんですけども。

○永井 インドラマユのことですか。

○松本委員 そうです。E/Sで消えてしまっていて本体借款の要請が上がらず、要請が上がらないまま実施しないということも明確におっしゃっているわけですから、この場合は、あれはE/S借款だったのか本体だったのかとか、どういうふうに整理をしたらいいのか。なので、今回のものもこれはE/S借款の要請が上がっているのか本体借款の要請が上がっているのかというのをちょっと知っておきたいことなんですけれども、そんなに重要ではないんですか、JICA的には。

○高橋 ご趣旨は理解しましたが、国により要請の出し方が違うところがありますものの、今回のバングラデシュの場合はE/Sに限定し要請が出ているわけではなく、この鉄道複線化事業を支援してほしいという内容で出ているということだと思います。

JICAにとってはまだ協力準備調査をこれから始めるところですので、本体事業の供与の検討を進めるには長い道のりがあり、今後どのような対応を取っていくかは調査の進展を踏まえ検討していくものです。助言委員会との関係では、現在スコーピングの段階にございますけれども、環境レビュー自体は、E/S借款の供与後の、本体事業の審査に先立ち実施する整理となります。

以上です。

○松本委員 なるほど。そうすると、繰り返しになりますが、E/S借款の前にスコーピングとドラフトファイナルの助言委員会があり、そして、本体の融資を検討する際に環境レビューがあるというのは最初の私の質問ですが、それでよろしいですか。

○永井 タイミング、スケジュール感で言いますと、ドラフトファイナルレポートの助言委員会はE/S借款の後、タイミング的には後になります。その後、本体の環境レビューの段階で改めてドラフトファイナルレポートの助言委員会に付議し、本体事業の形成を進める場合には本体の環境レビュー方針の助言委員会という形に進むと思います。

○松本委員 なるほど。これまたこの委員じゃない人たちがその次に当たるかもしれないので、議事録上確認をしておきたいんですけれども、今回やるスコーピング案はあくまで本体のスコーピングであって、次にドラフトファイナルレポートが出るときにはE/S借款の扱いになり、そして、最後本体の……。

○永井 スコーピングもDFRも本体を対象としたものになります。本体を前提としたものになります。

○松本委員 わかりました。さっきE/SとあったのはLA調印ですね。でも、DFRはE/S借款に対してと書いてありますよね。

○永井 書いていないです。このDFRというのは本体事業にかかる協力準備調査のDFRのことです。

○松本委員 でも、それは我々にとってはわからないですね、これ。E/S借款も審査があるわけですから、この助言委員会、今赤いポインターがついているところは本体に対しての、要するにスコーピング案に対してのドラフトファイナルレポートがこのタイミングで出てくると、そういうことなんです。

○永井 そういうご理解です。

○松本委員 E/S借款については、要するにこれそのものに特に助言委員会で何か議論するということはないということですね。

○永井 ないと想定しています。記載がわかりにくくて申しわけございませんでした。

○松本委員 間にE/S借款が入ったので、一体どれが助言委員会にかかるのかがよくわからなかったもので、わかりました。了解しました。すみません、原嶋委員長。

○原嶋委員長 ありがとうございます。

それでは、初めてご参加の委員の皆様のうち、阿部委員、鈴木委員、二宮委員、もしご発言ありましたら、今日は比較的時間的にも議題が多くないので余裕がございますので、ご発言を頂戴しますので、もしご発言の希望がありましたらお願いします。

阿部委員、鈴木委員、二宮委員ですね。よろしいでしょうか。

○二宮委員 今のところ特にございません。

○鈴木委員 特にございません。ありがとうございます。

○原嶋委員長 阿部委員、よろしいでしょうか。

ほかの委員の皆様、いかがでございましょうか。もし何か。ちょっとE/S借款と本体と、さらには不可分一体ではないようですけれども、鉄道専用橋の事業が動いているようでございますので、そういったところを見渡して作業が進んでいくと思えますけれども、何かご発言ありましたら頂戴しますので、サインを送ってください。

阿部委員、いかがですか。

○阿部（貴）委員 すみません。Resettlementの対象になっている2,000世帯の方々なんですけれども、詳しい情報を今後いただけるということですが、こちらの方々の世帯の構成ですとか、どのような生計手段を持っているかということなどがわかるとありがたいです。よろしく願いいたします。

○原嶋委員長 永井課長、大きな点で何かわかっているところを教えてください。

○永井 申しわけございません。ちょっとこの2,000世帯のデータ自体がもう10年近く前のデータという情報もありますので、改めて本調査の中で世帯数について確認、またあと、どういう構成なのか可能な範囲でやっていきたいと思ってございます。もちろん生計調査は社会経済調査の一部です。そちらについても調べたいと思ってございます。

以上です。

○阿部（貴）委員 よろしく願いいたします。

○原嶋委員長 どうもありがとうございました。

それでは、ほかの委員の皆様、先ほどありましたけれども、恐らく予定でいくと10月ぐらいをめどにスコーピング案のワーキンググループ会合の設定が予定をされております。

それでは、いかがでございましょうか。おおむね初めての委員の皆様にもご発言を一通りいただきましたけれども、ほかの委員の皆様、もしご発言ありましたら頂戴しますけれども。

二宮委員、どうぞ。

○二宮委員 原嶋先生、ありがとうございます。

私、先ほど今のところないと申し上げましたけれども、1点だけちょっと確認させてください。今回のこのプロジェクトは鉄道の複線化と同時に先ほど橋梁の話がありましたけれども、既存の26駅の更新も含むということで、この各駅、駅によって規模感が違うんでしょうけれども、駅周辺の更新工事というのはどのくらい周辺の面積的に大きさのプロジェクトになるのかどうかということ、それから、これは電化された鉄道なのかちょっと私、現地の様子がよくわからないんですけれども、

その場合は架線などの整備も必要になると思いますけれども、その辺のことも含むプロジェクトなのかということだけ確認させてください。

○原嶋委員長 永井課長、お願いします。

○永井 こちらのまず事業は電化ではなくディーゼルの電車が走る想定でございます。正直、すみません、駅についてはどこのそもそも駅の改修が必要なのかも含めてこれから確認したいと思ってございますので、レポートを通じてご報告させていただければと思います。

○二宮委員 今の駅に関する情報はワーキンググループのときにはある程度出てくるという理解でよろしいでしょうか。

○永井 そうですね。どういう駅を改修するのも含めて事業スコープの対象になってきますので、検討したいと思っています。

○二宮委員 わかりました。ありがとうございました。

○原嶋委員長 どうもありがとうございました。

それでは、一通りよろしいでしょうか。

それでは、もしご発言の希望がありましたらサインを送ってください。

初めての委員の皆様もいらっしゃいましたので、ちょっと長くなりましたけれども、永井課長、どうもありがとうございました。

それでは、これで案件概要説明を締めくくりとさせていただきますけれども、よろしいでしょうか。

どうもありがとうございました。永井課長、どうもありがとうございました。

○永井 ありがとうございました。失礼いたします。

○原嶋委員長 どうもありがとうございました。

それでは、4番目ですね。本日は先ほど申し上げましたけれども、通常全体会合ではワーキンググループで議論した助言案を確定するという作業が入ることが多くて、それが助言委員会あるいは全体会合の重要な役割でございますけれども、本日はそれが入っておりませんので、続きまして4番目になりますけれども、今後の会合スケジュールの確認ということになります。

事務局といいますか、審査部のほう、よろしくお願いします。

○小島 今日の運営、ありがとうございました。

次回の全体会合、つまり今日みたいな形で開催するものにつきましては、9月2日金曜日、同じ時間、午後2時からということになります。基本的にオンライン会議ということで考えています。実際に参加されたいという方はコロナの状況にもよるんですけども、そういう方がおられましたらご相談いただければと思います。

事務局からは以上です。

○原嶋委員長 どうもありがとうございました。

それでは、一応本日予定しているところは以上ですけれども、もし何か、初めてご参加の委員の皆様もいらっしゃるとは思いますけれども、新しい期の委員会の最初ということでございますので、何かご発言ございましたら承りますので、サインを送ってください。

あと、新しい委員の皆様にはとりわけ日程の確認を冒頭させていただいておりますけれども、もう一度確認していただいて、もしご都合が悪ければ早めにご連絡をいただければと思いますので、

よろしく申し上げます。

何かご発言の希望がございましたら承りますので、サインを送ってください。

よろしいでしょうか。

事務局のほうは何かございますか。

○小島 特にありません。ありがとうございます。

○原嶋委員長 それでは、最後になりますけれども、もう一度確認させていただきますけれども、何かご発言の希望がございましたら承りますので、遠慮なく頂戴します。

今回は比較的議題が少ないので、余裕を持ってご発言の機会ができますけれども、議題が多いときには結構タイトな形で進行させていただくことがありますので、ちょっとご無理をお願いすることがあると思いますけれども、その際にはぜひご協力をお願いしたいと思います。

何かご発言ありましたら頂戴しますけれども、特に新しくご参加の委員の皆様、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。あと、ほかの委員の皆様ももしありましたら頂戴しますけれども、いかがでしょうか。

それでは、ないようでしたら第139回の環境社会配慮助言委員会全体会合をここで終了させていただきます。

本日はどうもありがとうございました。引き続きよろしくお願い申し上げます。

15時33分閉会